

受ける安心。 大腸がん検診。

天間地区にお住まいの方へ。

今年[・]は受けよう。今年[・]も受けよう。



早期の大腸がんでは、ほとんど**自覚症状がありません**。

“症状がないから検診は受けなくていい”という考えは危険です△

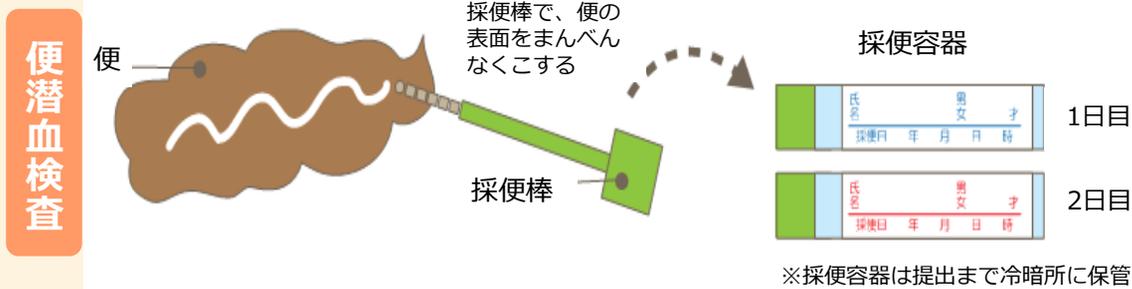


早期発見・治療で**95%以上の人**が治ります。

早期発見のためにも毎年大腸がん検診を受けることが大切です。



大腸がん検診（便潜血検査）は自宅で2日分の便をとり提出する簡単な検査です。



大腸がん検診は**37歳以上**が対象
今すぐチェック！黄色の封筒！



【がん検診についてのお問い合わせ】

富士市健康政策課 健診担当 ☎0545-64-8992

《大腸がん検診の流れ》

受診方法を選び、申込み

- ①医療機関で受ける→ p.13~14
- ②集団検診で受ける→ p.15~22



採便容器の受け取り

- ①個別検診：医療機関に取りに行く。
- ②集団検診：郵送で届く。

2日分の便をとる

検診当日を含めて4日間の間に、
2日分の便をとる。

提出

検査結果を確認

発行：天間地区まちづくり協議会

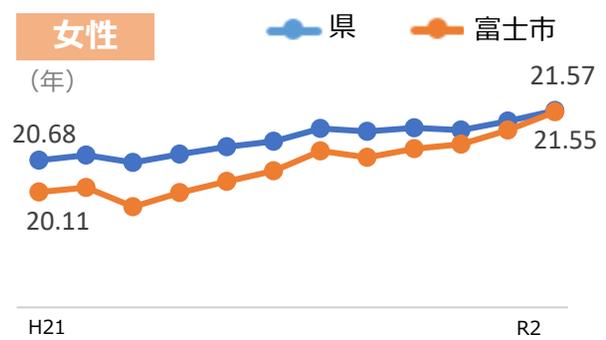
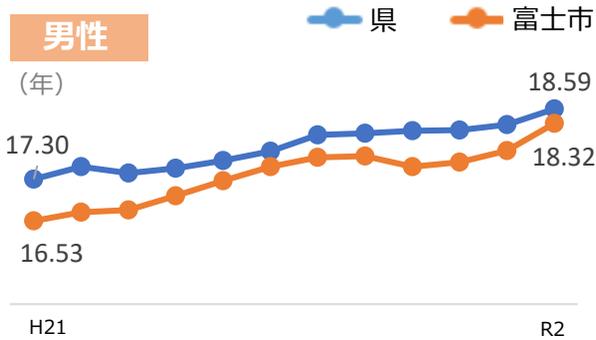
作成：富士市地域保健課 天間地区担当保健師 久保田

富士市の健康状況

1. 健康で長生きを目指しましょう！～富士市のお達者度～

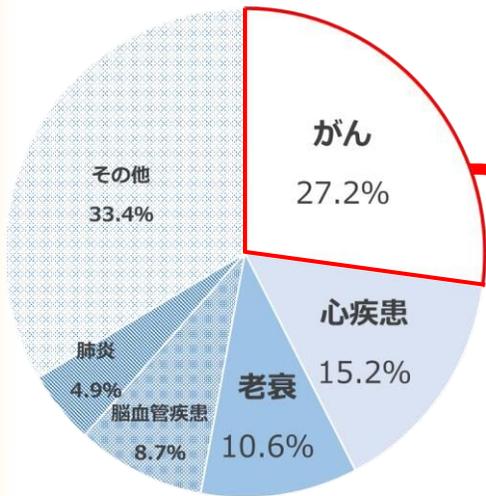
お達者度とは、「65歳から元気で自立して暮らせる期間」をいい、「死亡率」と「要介護割合」を用いて静岡県が独自に算出し、毎年発表しています。

令和2年の富士市のお達者度は、男性が18.32年、女性が21.55年で、依然として県平均には届いていません。しかしながら、統計開始の平成21年のお達者度と比較すると、男性は1.79年、女性は1.44年延びています。これは、変化の延びで比較すると、県内35市町中、男性は4位、女性は6位と高い改善傾向がみられています。



2. お達者度に影響が大きい要因のひとつ「がん」

■富士市/死因別死亡割合（令和3年度）



◀富士市民の死因別の死亡割合をみると、がん（悪性新生物）で亡くなる人が27.2%と最も多く、お達者度にも大きな影響を与えています。

特に、男性は50～64歳、女性は45～54歳の年齢階級で人口10万人当たりのがん死亡数が県平均を上回っており働き世代の死亡が多い傾向があります。

▼大腸がんで亡くなった方は男性56名・女性47名でありがんによる死亡のうち男性2位・女性1位となっています。

■富士市/がん部位別死亡数（令和3年度）

